

「足湯・うずのゆ」リニューアル

防風扉と天窓を整備



▲防風扉と天窓を設置した「足湯・うずのゆ」

南あわじ市の温泉施設「足湯・うずのゆ」にこのほど、風雨を避けるための防風扉と天窓を取り付け、リニューアルオープンしました。同施設は、南あわじ市内の温泉郷を観光客にPRする広告塔として、昨年四月九日、なないる館の隣に完成しました。癒しと憩いの場として親しまれ、現在までに一日平均で約二百人が利用しています。施設は、屋外の景色と開放感を楽しんでもらうため外壁は無く、屋根の中央から自然光を取り込むため空間が設け

られていたことから、雨天時や強風時には利用がしにくく、要望が寄せられていました。一月中旬からの改装工事では、海側の四面に透明アクリル板製の防風扉と屋根中央部にガラス製の天窓を設置、足洗い場も新設して衛生面に配慮しました。また、施設内の保温効果が高まることによる加熱用燃料費の節約にもつながることが期待されています。費用は約三百万円。

文化財を火災から守ろう

文化財防火デー

全国各地で文化財防火運動を展開する「文化財防火デー」にあわせ、一月二十五日と二十六日の両日、淡路広域消防職員と市役所文化財担当職員が国や県、市の指定を受けている文化財管理施設十八か所を巡回し、防火設備を点検しました。

昭和二十四年一月二十六日、現存する世界最古の木造建造物で国宝の法隆寺金堂（奈良県）が炎上し壁画が焼



▲木造薬師如来立像が安置されている薬師堂を点検する淡路広域消防職員

上幡多管農組合の設立総会

集落全員でがんばろう



▲上幡多集落が取り組む「幡多の朝市」16頁参照

南あわじ市榎列の上幡多集落の七十七戸が参加する「上幡多管農組合」の設立総会が

二月十四日、上幡多管農センターで開催され住民ら約五十人が出席しました。組合の農地・水・環境委員会では、国などが進める「農地・水・環境保全向上対策事業」に取り組み、農地や農業用水などの資源を集落員が一体となって良好な状態で守る活動を行います。また、総務委員会では、田植機の共同利用による経費の削減や野菜栽培の研修会など担い手の育成に取り組みます。同地区は玉葱やレタス等の

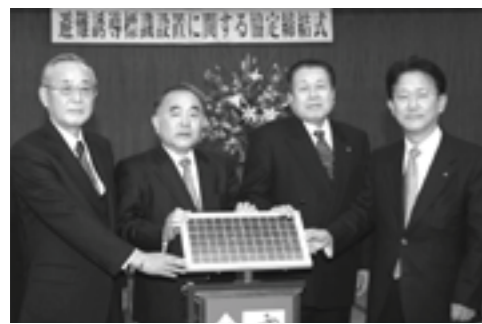
栽培が盛んで、ほ場整備や堆肥センターなどがすでに完成しており、共同播種作業や朝市などにも積極的に取り組んでいます。組合長に就任した里深亘さんは、「集落の意見を尊重して組合を設立しました。組合員の熱い思いに答え、担い手育成や地域の特性を生かした効率的な農業を確立していきたい」とあいさつ。中田市長も「これからも先進的な地域としての取り組みを願っています」と祝辞を述べました。

避難場所を示す誘導標識設置

NPO法人が島内3市と協定

地震や津波などの災害発生時に市民に避難場所を知らせる誘導標識を設置するNPO法人「案内・安全共通マーク普及会」と島内三市が標識設置に関する協定を結びました。協定の締結式は二月九日、淡路広域消防本部で行われ、同NPOの園邊榮五郎理事長と柳実郎洲本市長、門康彦淡路市長、中田勝久南あわじ市長が協定書を交換しました。

避難標識は、三・五層の支柱に縦六十七センチ、横三十二センチの発行ダイオードの導光板を付けたもので、避難誘導シンボルと避難場所までの距離が示されています。太陽電池パネルと蓄電池を備え、夜間は点滅表示し、停電時にも作動します。今後は、同NPOが企業協賛金を集めて製作し、各市に五基ずつ設置する計画です。



▲協定を結ぶ園邊理事長（左）と島内の3市長

年金だより

国民年金保険料の納付が困難なときは

病気やケガ・失業・所得の減少等により、国民年金保険料を納めることが困難な場合、保険料の納付が免除や猶予される各種制度があります。未納のまま放置されますと、将来の老齢基礎年金や、いざというときの障害基礎年金、遺族基礎年金を受け取ることができない場合もありますので、必ず手続きしてください。

申請免除（全額免除・一部納付）

一定の条件を満たす人に、保険料の「全額」もしくは「一部」が免除されます。

- ▽免除の種類 全額、4分の3、半額、4分の1
- ▽審査要件 本人・配偶者・世帯主の所得
- ▽承認期間 7月～翌年6月

若年者納付猶予

30歳未満の人で国民年金保険料を納めるのが困難な人で条件を満たすと保険料の納付が猶予されます。

- ▽審査要件 本人（30歳未満）・配偶者の所得
- ▽承認期間 7月～翌年6月
- ▽学生納付猶予 学生で前年所得が基準額以下

年金相談

- ▽日時 4月6日（金）午前11時～午後3時
- ▽場所 南淡公民館
- ▽申込み 市民課
- ☎43・5023

防災ひとこま

自主防災組織の現状

防災課 ☎43-5006
南あわじ市防災ネット <http://bosai.net/minamiawaji/>

81団体が誕生

南あわじ市では、平成十六年の台風災害の経験や、近い将来高い確率で発生するとされている南海地震への対策から「自主防災組織」の育成を推進しています。

自主防災組織とは、地域ぐるみで助け合い、災害に備えるための取り組みです。現在、二百二十自治会のうち、約百七十自治会での住民説明会を終え、八十一の組織が設立されています。

しかし、組織は立ち上げたものの、多くの団体が具体的な取り組みを進めていないのが現状のようです。

具体的な活動例

- ・個人の防災意識の向上と強いコミュニケーションづくりが基本の活動となります。一例を紹介しします。
- ・学習会を開催する
- ・防災マップを作成する



▲自主防災組織についての住民説明会